

南ア・ランド、金融市場の活況で堅調続くも「変異種」が新たな暗雲に

～金融市場の活況が不安材料を覆い隠すも、感染再拡大が实体经济に与える影響に要注意～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
 主席エコノミスト 西濱 徹 (TEL:03-5221-4522)

(要旨)

- 世界経済は新型コロナウイルスのパンデミックによる景気減速から立ち直る動きがみられる一方、主要国での感染再拡大の動きは冷や水を浴びせる懸念がある。他方、国際金融市場は「カネ余り」が続かなかでワクチン開発への期待も追い風に活況を呈する対照的な状況が続く。南アフリカでは春先以降の格下げなど悪材料にも拘らず、金融市場の活況や景気底入れ期待を背景にランド相場は底入れの動きを強めてきた。
- しかし、先月以降は同国でも感染が再拡大しており、感染力の強い変異種が確認されたほか、感染拡大とともに死亡者数も拡大するなど厳しい状況に直面している。政府は先月に海外との間で渡航を解禁したが、変異種の確認を受けて同国との渡航を一時停止する動きも出ており、景気回復の動きに冷や水を浴びせる懸念もある。ランド相場は短期志向が強まっているとみられ、当面は大きく変動するリスクに要注意と言える。

世界経済を巡っては、新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）のパンデミック（世界的大流行）を理由に大きく下押し圧力が掛かる事態に直面したが、中国の感染封じ込めによる経済活動の正常化を背景とする景気回復の動きに加え、欧米など主要国でも感染拡大が一服して経済活動が再開されたことで、製造業を中心に企業マインドが改善するなど底入れの動きを強めている。ただし、足下では欧米などの主要国で感染が再拡大して行動制限が再強化される動きが広がっている上、一部の新興国でも同様に感染が再拡大する動きのほか、感染収束の見通しが立たない国もみられるなど、景気回復の動きに冷や水を浴びせる懸念が出ている。他方、国際金融市場は全世界的な金融緩和を背景に『カネ余り』の様相を一段と強めるなか、ワクチン開発の進展を受けて世界経済の回復が進むとの期待を反映して株式をはじめとする資産価格は上昇傾向を強めるなど、实体经济を巡る懸念とは対照的に活況を呈する動きが続いている。さらに、米大統領選でのバイデン前副大統領の勝利を受けて、次期政権も財政出動による景気下支えに動くとの期待を反映して金融市場では米ドル安圧力が強まっており、一部のマネーはより高い収益を求めて新興国に回帰する動きがみられるなど、金融市場の活況は後押しされている。南アフリカでは、春先以降に主要格付機関3社が新型コロナウイルスの感染拡大とそれに伴う財政状況の急速な悪化を理由に相次いで格下げを実施したほか（詳細は5月1日

図1 ランド相場(対ドル)の推移



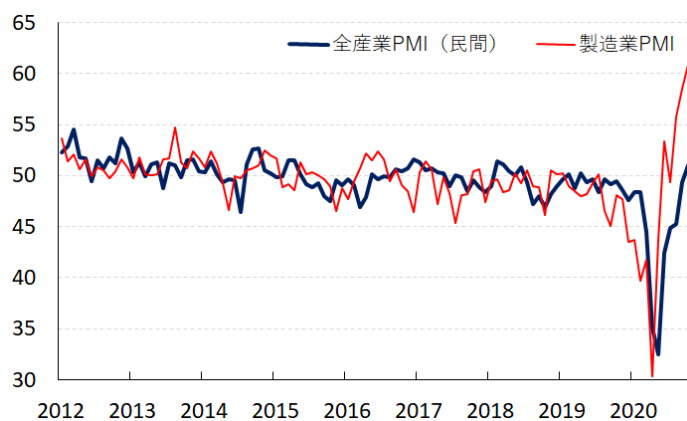
(出所)Refinitiv より第一生命経済研究所作成

付レポート「[南アフリカ、新型肺炎を理由とする「格下げドミノ」に直面](#)」をご参照下さい、先月にも2社が追加の格下げを実施するなど長期資金が流入しにくい環境となったものの、通貨ランド相場は国際金融市場の楽観を反映して強含む展開が続いてきた（詳細は11月25日付レポート「[南ア・ランド、市場の楽観が格下げなど悪材料を覆う展開が続く](#)」をご参照下さい）。なお、南アフリカでは春先以降の新型コロナウイルスの感染拡大を受けて都市封鎖（ロック

ダウン）による感染封じ込め策が採られ、秋口にかけては新規感染者数が頭打ちしたことで、政府は9月以降に都市封鎖を解除するなど経済活動の正常化が図られてきた。さらに、政府は総額5000億ランド（GDP比9.8%）規模の景気刺激策の実施を決定したほか、その一部をIMF（国際通貨基金）のラピッド・ファイナンス・インストルメント（RFI）の枠組を通じた緊急収支で賄うとともに、中銀も金融緩和を実施するなど政策を総動員する形で景気下支えが図られた。こうした動きに加え、世界経済の回復期待も追い風に同国においても製造業を中心に企業マインドは大きく改善するなど景気の底入れを示唆する動きがみられ、国際金融市場が『リスク・オン』の様相を強めてきたことも相俟ってランド相場を押し上げてきたと捉えられる。

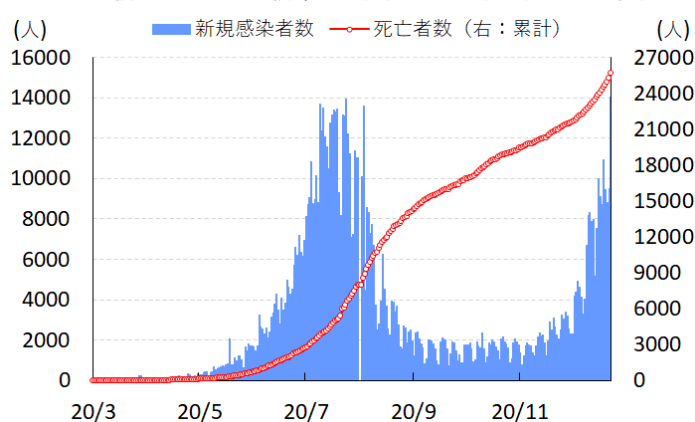
しかし、同国では先月末以降に新型コロナウイルスの新規感染者数が再び拡大傾向を強めており、今月に入って以降は感染力の強い「変異種」が発見されるなど、足下において感染が再拡大する元凶となっている可能性が高まっている。なお、WHO（世界保健機関）は新型コロナウイルスの変異種について「過度に警戒する必要はない」との見解を示したが、「感染拡大の抑制にはより明確な情報が得られるまでヒトの移動を制限することが賢明である」との見方も示されるなど、WHO内においても一致した見解が示されるには至っていない可能性がある。こうしたなか、足下の南アフリカにおいては新規感染者数が再拡大しており、累計の感染者数は95万人を上回る水準に達している上、死者数も再拡大して累計で2.5万人を上回るなど事態は急速に悪化しており、行動制限の再強化が必要になる可能性も高まっている。また、同国政府は先月、低迷が続く観光関連産業や外食関連産業を後押しする観点から、すべての国を対象に往来を解禁する方針を明らかにしており、必要な保健衛生上の手続きと陰性証明の提示を条件にすべての国からの渡航者の受け入

図2 企業マインド統計(PMI)の推移



(出所)CEIC, IHS Markit より第一生命経済研究所作成

図3 新型コロナの新規感染者・死者(累計)の推移



(出所)Refinitiv より第一生命経済研究所作成

れを解禁したほか、海外からの来訪者の受け入れに向けて幅広い経済活動を『平時モード』に戻す動きが進んできた。しかし、南アフリカ由来による感染力の高い変異種の誕生を受けて、感染の再拡大に直面しているイギリスのほか、多くの国が同国からの飛行機及び渡航の受け入れを一時停止する動きが広がりを見せており、政府の思惑は早くも崩れることが避けられなくなっている。さらに、感染が再拡大に至るのを前に底入れが進んだ企業マインドは頭打ちするなど息切れが懸念される動きがみられるなど、足下では感染再拡大によってマインドに大きく下押し圧力が掛かる可能性も予想されるなど、景気の底入れの動きに冷や水を浴びせる懸念も高まっている。このところ国際金融市場の活況は短期志向の強い投資家の動きを活発にしているとみられ、格付上は「投資不適格」とされる南アフリカへの資金流入も活発化してランド相場の堅調に繋がっているものの、先行きについては新型コロナウイルスの動向如何で上下双方の動きが強まる可能性があるなど動意が大きくなることに注意が必要と言えよう。

以 上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

